

安芸市流域

森づくり構想

「森から海へ、すべての人にその恩恵が行き渡るまちづくり」

2024



2028

高知県 安芸市

BLUE
FOREST
BLUE
OCEAN



INDEX

安芸市流域森づくり構想について	02
安芸市流域森づくり構想が描く、本市が目指すべき森づくりの姿	03
はじめに	05
Blue Forest, Blue Ocean. (ブルーフォレスト・ブルーオーシャン)	07
01 安芸市流域森づくり構想策定にあたって	
1-1 安芸市流域森づくり構想策定の目的	09
1-2 安芸市流域森づくり構想の位置付け	11
1-3 安芸市流域森づくり構想の計画期間	11
02 安芸市流域森づくり構想	
現状と将来像	
2-1 安芸市流域森づくり構想が描く、本市が目指すべき森づくりの姿	13
2-2 安芸市の森林・林業・木材産業が抱える課題	15
2-3 安芸市の豊かな森林、まち・人の魅力と可能性	25
安芸市の森林ゾーニング	
2-4 安芸市の森林ゾーニング検討結果	31
03 3つのテーマに取り組む30のアクションプラン	
アクションプランの全体像	41
3-1 森づくり	43
3-2 木づかい	51
3-3 まちづくり	57
04 SDGs(持続可能な開発目標)への取組	65
05 安芸市流域森づくり構想の推進体制	69
06 安芸市流域森づくり構想策定の過程	
安芸市流域森づくり構想策定までに実施した主要な協議・取組	73
安芸市森林整備促進協議会 委員名簿	74

安芸市流域森づくり構想

森から海へ、すべての人に

その恩恵が行き渡るまちづくり

高知の東、深く険しい山々に抱かれた安芸のまち。
源流の森から太平洋へと駆け降りるように注ぐ5つの河川の流域で
私たちは日々を営み、歴史をつないできました。

安芸市の89%を占める森林こそは、
裾野にある里やまちの自然環境・産業経済・生活文化の源であり
その恩恵は水の流れにより、そして林業の川上から川下のつながりによって、
まちのすみずみまで行き渡ります。

しかし、この豊かさは当たり前のものではなく
私たちが森林を見つめ、心を向け続けなければその価値は忘れられてしまい
自然と注意深く向き合わなければ、その恵みは失われ、時に牙をむくこともあります。

源流の森から海までが1つのまちにある
この日本の縮図のような、1つの小宇宙のような安芸市で
これからも森が青々とし、まちや人がいきいきとし、海が青くあり続けるように。

流域の命と暮らしを育む「森づくり」
まちと暮らしの価値を高める「木づかい」
森林と生きる幸せを感じられる「まちづくり」
3つのテーマで考え行動していきます。

Blue Forest, Blue Ocean.
森から海へ、すべての人にその恩恵が行き渡るまちづくり

それが私たちのビジョンです。

安芸市流域森づくり構想が描く、 本市が目指すべき森づくりの姿



「森から海へ、すべての人に
その恩恵が行き渡るまちづくり」

すべての取組はこのビジョンを達成するために

本市の森づくりが目指すビジョン(将来像)である
「森から海へ、すべての人にその恩恵が行き渡るまちづくり」を達成することで、
森も人の暮らしも豊かになるという夢を実現します。

第3章に示す「30のアクションプラン」は
すべてこのビジョンを達成するために計画・実行・管理されます。

BLUE
FOREST
BLUE
OCEAN







安芸市は、県都・高知市から東へ約40キロに位置し、南は土佐湾に面し、北は四国山地を背にする美しい自然に囲まれた県東部の中核都市です。市域に占める森林面積の割合(森林率)は89%であり、全国一位である高知県の84%を上回る森林資源豊かなまちです。この森林は、地球温暖化による気候変動問題を解決するための重要な働きのほか、生物多様性の保全、木材の生産、保健やレクリエーションのための森林空間利用、山地災害の防止、水源かん養など、市民の暮らしに様々な恩恵をもたらしています。

とくに、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルや脱炭素社会の実現を目指すために、二酸化炭素を吸収する森林の果たす役割は今後より大きくなり、GX(グリーントランスフォーメーション)やネイチャーポジティブ(自然の損失を止め回復基調に乗せること)を促進する重要な要素として存在感が増していきます。さらに産業振興の側面から見ても、戦後や高度経済成長期の造林の推進によりスギやヒノキなどの優良な人工林が形成され、大きく育った木々が木材として利用可能な時期を迎えています。

しかし、長期的な木材価格の低迷に伴う森林経営意欲の低下や、林業就労者の高齢化・担い手不足といった背景の中で、林業・木材産業は非常に厳しい状況にあります。また、世代交代などによる森林所有者の森林への関心の薄れから、適切に管理されていない人工林が増え、森林の有する公益的、多面的機能が十分に発揮されなくなっています。

本市は、林業の成長産業化の実現と森林資源の適正な管理の両立を図り、適切に管理されていない森林の整備、森林整備を担う人材の確保や育成、木材利用や普及啓発、森林教育や情報発信などについて地域のニーズに沿った本市独自の積極的な取組を森林環境税及び森林環境譲与税を活用しながら推進していくために「安芸市流域森づくり構想」を策定しました。

本構想は、川の源である源流域から太平洋までの多様な水辺の環境がすべて本市の中にあり、まちを巡るその水が森林率89%の豊かな森林を育んでいることを「安芸市らしさ」と捉え、この多様な環境を未来へとつなぎ、そこに関わる多くの産業を振興させるという目標を達成するために、「森づくり＝まちづくり」という考え方を大切にしながら策定しました。この構想により、森林や林業、木材産業、まちづくりに関わる多様な人たちの間で、現状と目標に対する理解が共有され、議論が継続されることを期待します。

本構想の策定にあたりましては、安芸市森林整備促進協議会委員の皆様に慎重なご審議をいただきましたほか、多くの市民の方から貴重なご意見を賜り、心から感謝を申し上げます。

安芸市長 横山 幾夫



BLUE BLUE FOREST OCEAN

これは、安芸市流域森づくり構想の思想や
目指す森づくりのビジョンを分かりやすく表した「スローガン」です。
本構想を市内外へ確実に伝え、浸透させるために作ったもので、
安芸市の森づくりといえば
「Blue Forest, Blue Ocean.(ブルーフォレスト・ブルーオーシャン)」と
思ってもらえるほどに認識されることが目標です。
また、本市の森づくりに関わるたくさんの人たちの間で、
自分たちが目指す方向性や辿り着きたい
ゴールのイメージを共有するための
「合言葉」でもあります。

込めた 想い

この「Blue Forest, Blue Ocean.
(ブルーフォレスト・ブルーオーシャン)」

には、森が青々とすれば、海も青くなる、森が良くなれば海も、まち全体も良くなるという想いを込め、本市が森から海までつながるまちであること、森が豊かな環境や産業、経済を含めたすべての源であることを表現しています。

また、ブルーオーシャンは競合がない、無限の可能性がある伸びていく市場という意味があり、経済・産業振興の面も含めて、本市がしっかりと森の価値を活かしていけば、どこにも負けない素敵なまちになるという意味をも込めています。

BLUE ブルー

ブルーという色には誠実やポジティブ、クリーンといったイメージを想起させる力があります。そこに、水の流れて流域がつながっているという安芸市らしさを重ね合わせて言葉を作りました。また、世界視野で考え、世界に安芸市を発信していこうという想いから英語表記としています。本市の森づくりに関わる多彩な人々がこの「Blue Forest, Blue Ocean.(ブルーフォレスト・ブルーオーシャン)」という言葉で共通して発信していくことで、「安芸市流域森づくり構想」を力強くアピールしていきます。

01

安芸市流域森づくり構想策定にあたって

BLUE
FOREST
BLUE
OCEAN

1-1 安芸市流域森づくり構想策定の目的

策定への思い

森林は多くの恩恵を私たちに与えてくれます。そして、その恩恵が本市に暮らし、働き、関わるすべての人に行き渡ることによって豊かなまちを作ることができると思っています。

そのためには、森林の持つ多様な機能が維持され、発揮され続けるよう守り育てていく必要があります。そして、もっと森林のことについて知ろうと行動し、その恩恵の価値を見直し、広く伝え、暮らしに活かす工夫を考え続けることで「安芸市らしい森づくり」が実現できると考えます。

本市は川の始まる源流域から太平洋まで水が巡るすべての場面を内包しています。この多様な水辺の環境は豊かな森林を育み、多様な産業をもたらしています。本市には素材生産を行う川上の林業があり、運び出された木を加工する川中の製材業があり、製材された木材を暮らしに建て込む川下の建築業があり、川上から川下まで木を暮らしに活かす多くの産業があります。この産業の振興のためには長期間に渡って一貫性のある政策展開をする必要があり、本構想はその指針として策定するものです。さらに、森林環境税及び森林環境譲与税を活用するにあたり、長期的な視点をもった効果のある使途と地域性をふまえた取組を透明性をもって展開する必要があり、森林・林業・木材産業の振興についてオープンな議論を行うための舞台としての役割も本構想は担います。

また、産業振興とならび重視するのは気候変動対策と生物多様性の保全です。地球温暖化による気候変動問題など世界各国では温室効果ガス排出量削減が喫緊の課題となっていて、日本でも、政府が2050年までに温室効果ガス排出量を全体としてゼロの状態にする「カーボンニュートラル」を目指すと宣言しました。カーボンニュートラルを達成し脱炭素社会を実現するために、温室効果ガスの吸収源として不可欠な役割を果たしている森林を適切に管理して、機能を強化することでGX(グリーン・トランスフォーメーション)を推進します。さらに、気候変動問題より深刻であるとも言われる生物多様性の危機に対してもOECM(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)についての取組や、森林教育、研修事業を通じた認識の変容を促す取組などによりアプローチします。

本構想の主体は、安芸市民、林業・木材産業事業者、行政(安芸市)、および関係人口であり、それぞれが主体的に考え活動することで構想が描くビジョンを達成します。森林について考える機運を高め、それぞれのプレイヤーが能力を発揮して森づくりを盛り上げ、プレイヤー間に今までになかった接点ができて思いがけないアイデアが生まれる、このようにビジョン達成までの各段階を想定しています。そしてその先に「安芸市らしい森づくり」があると考えています。



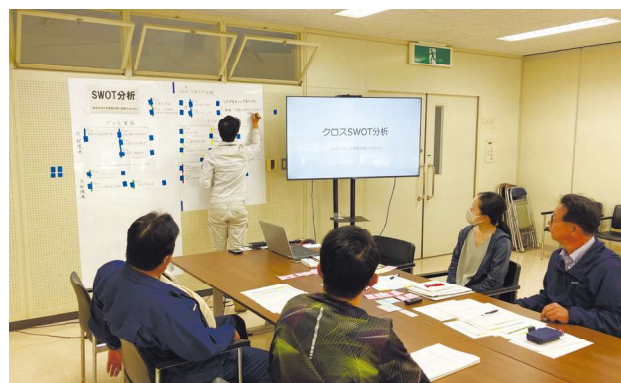
安芸市流域森づくり構想 第1回協議会



安芸市流域森づくり構想 分科会(森づくり部会)



安芸市流域森づくり構想 第2回協議会



安芸市流域森づくり構想 分科会(木づかい部会)



安芸市流域森づくり構想 第3回協議会



安芸市流域森づくり構想 分科会(まちづくり部会)



森づくり市民ワークショップ



安芸市流域森づくり構想 先進地視察(本山町)

1-2 安芸市流域森づくり構想の位置付け

本構想は本市の最上位行政計画である「安芸市総合計画」の個別計画として位置づけます。策定にあたっては、国、県の計画や本市の各計画との整合性を図りながら、今後の本市の目指すべき森づくりの将来像を明確にするものとしします。



主語は「わたし」

この構想の主体は、安芸市民、林業木材産業事業者、行政(安芸市)、および関係人口です。それぞれが主体的に考え活動することで構想を実現させます。



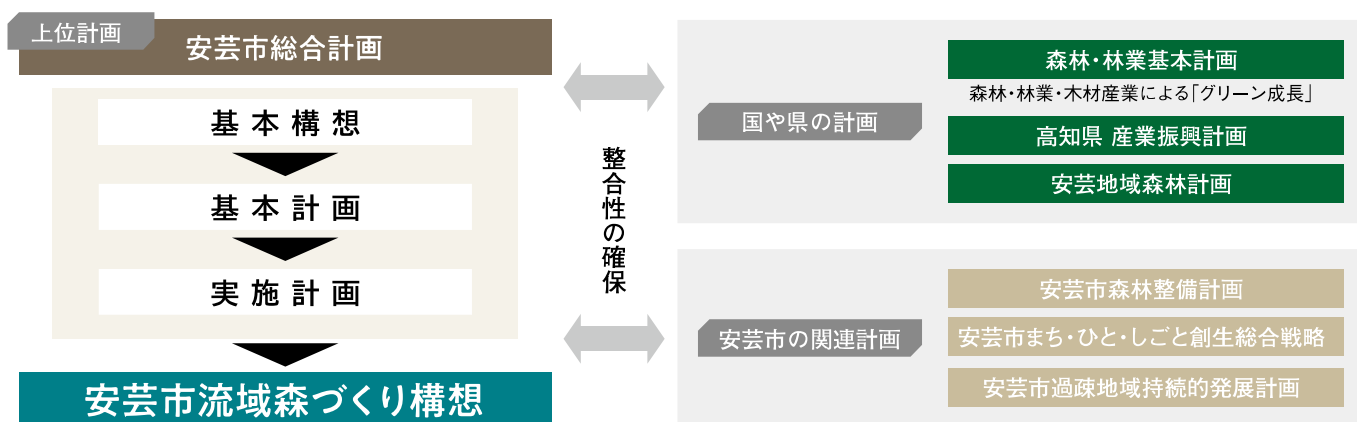
未来像から行動指針まで

この構想には、地域と森林の未来像(ビジョン)と、それを実現するために大切にする理念、考えるべきテーマ、必要な手段、課題、各主体の行動指針が示されています。



その恩恵は世界へ

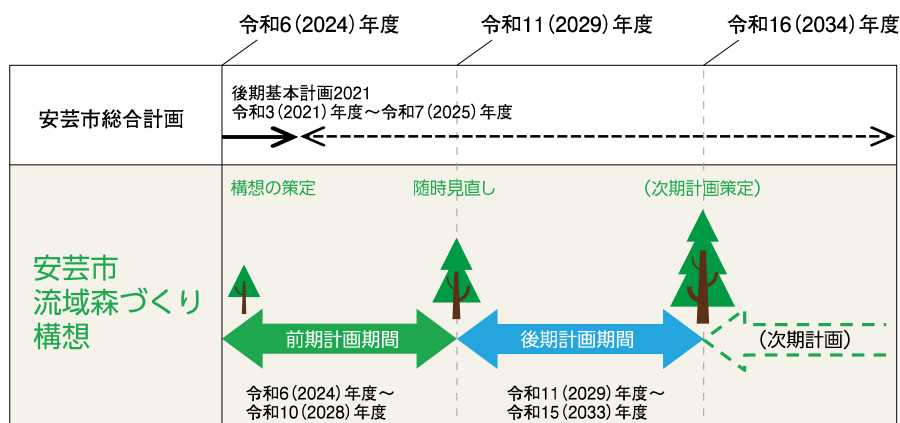
この構想の実現によって恩恵を受ける対象は、構想の主体である安芸市民、林業木材産業事業者、行政(安芸市)、関係人口のみならず、本市に生息する多様な生物、日本国民、地球環境全体までも想定しています。



1-3 安芸市流域森づくり構想の計画期間

本構想は令和6年度から令和15年度の10年間を計画期間として定め、令和6年度から令和10年度の5年間を前期計画期間、令和11年度から令和15年度の5年間を後期計画期間とします。また、森林・林業・木材産業を取り巻く社会・経済情勢の変化に柔軟に対応するため、必要に応じて随時見直しを行います。

■ 安芸市流域森づくり構想の計画期間



02

安芸市流域森づくり構想

現状と将来像

安芸市の森林ゾーニング

BLUE
FOREST
BLUE
OCEAN